

太陽の子

2024年 4月 No.187

春の号

発行

日立市助川町5-14-8

TEL(23)2620 FAX(33)9150

ホームページ <http://www.taiyonoie.com>

Eメール npo@taiyonoie.com

NPO法人 日立太陽の家

日立重症心身障害児(者)を守る会

日立太陽の家支える会



茨城工業高等専門学校がもつ魅力的な事業「MIPPE」。太陽の家利用者の願いに応じて、電動車椅子のカスタマイズ、遊びながら機能訓練につながる「プロジェクションマッピング」、魅力的な事業がただいま進行中です。

「暖かい」から始まりました

特定非営利活動法人 日立太陽の家 理事長 小 又 克 也

夢の中で、「太陽の子」の読者から手紙をいただきました。「あつたか事業の記事を読ませていただきました。あのお風呂の事業ね、〇〇法律の〇〇サービスを使うと対応できると思いますよ。」

「そのサービスは今度法整備に向けて話し合いがはじまるそうですよ。」

不思議なもので、夢でいたいた手紙でもうれしくなります。例えば、日立市では五十年以上も前に、まだ重症心身障害児(者)が施設入所ではなく、生活の基盤を家族と共にしながら日々通園をするという、当時まだ法律になかった通園施設を作りました。

重症心身障害児(者)を中心に、ご両親、ご家族、たくさんの方の支援者、そして日立市の暖かい心が一つになって『日立市太陽の家』ができました。重症心身障害児(者)の通園施設としては、日本で最初にできたと聞いています。ここから「福祉の街ひたち」が始まりました。

日立市太陽の家の場合は、昭和四十五年七月に運営を始め、平成十五年に「支援費制度」ができるまで三十三年間、対応できる法律ができるまでにかかった年数です。

法律はその後も改定を加えて、「障害者自立支援法」そして現在の「障害者総合支援法」になりました。

目の前の困っていることを解決する暖かい心が広がって、やがて法律になるのだと、法律はそうやってできてくるのだと教えられました。

まだ法整備が整っていない 『あつたか事業』はやりたいたことがまだまだありそうです。

お風呂のことはもちろん、入院中の困りごと、兄弟が多いご家族の頑張りも、学校入学も、お母さんたまには休みたい時もあると思います。ご高齢の両親の年齢に合わせて、家族支援のの中身も変わってきます。

令和六年度が始まります。世界中から戦いがなくなり、みんなが「あつたかく」になるといいですね。

新年度を迎えての抱負

映画「すずめの戸締まり」を観て

日立市太陽の家 サービス管理責任者

富岡 昌弘

3月に、レンタルショップで「すずめの戸締まり」をレンタルしました。多少ネタバレになってしまいましたが、東日本大震災をテーマにした内容でした。観ている内に自身のあの日の記憶が蘇ってきました。

あの日、まだ太陽に入職しておらず前職にて被災しました。停電により情報も碌に入らず余震が続く恐怖の中、職場の水戸から8時間かけて帰路についたことは一生忘れません。

先日、日立で起きた豪雨災害や正月早々に起きた能登半島地震もそうですが、何時災害が起こるか分かりません。

「常に備えておくこと」新年度はこのことを特に意識したいと思います。備蓄に限らず、様々な場面におい

て対応することができるよう、職員間の意識共有を図り、利用者さんが安心して登園できる「太陽の家」にしたいと思います。

楽しい時間を♪

日立市ひまわり学園 サービス管理責任者

佐藤 美沙

私がひまわり学園に勤務し数人のお別れをしました。その第一歩だったり、天国への旅立ちです。お別れはとても悲しく寂しい気持ちになります。いつも聞かされていた声が聞こえなくなるとつい耳を傾けてしまったり、探している自分がいます。電車を見るときつい「ポッポ」と口にしてしまいうるにもなります。

でも新たな第一歩のときには笑顔で「ありがとう。がんばってね！」と送り出してあげたいのですが……つい「行かないで」という気持ちのほうが強いのが本音

です。もつともつと一緒に過ごしたかったなと。そこにある「いつもが」いつまでも「ではない。だから一分、一秒を大切に、悔いなく過ごしたいなと思います。

私は「利用者さんと楽しく過ごす」がモットーです。利用者さんにもたくさん楽しいを経験してもらいたいと思っています。自分も笑顔で、みんなも笑顔でいられまうように。

みんなのパワーII

日立市いの木学園 サービス管理責任者

阿部 結花

昨年度はコロナも緩和されてきました。まだまだ感染対策に余念がない一年となりました。その中でも親子旅行が実施され、思いっきり自然を満喫することが出来ました。

60歳と20歳の利用者さんのお祝い会もでき、少しずつ素敵な時間が取れるようになりまし。その一方で、グループホームに入所し、利

用者さんの環境も変化していきまし。支援員はどのような支援ができるのか」を考えさせられた一年でもあり、勉強不足だなと痛感していまし。

今年度の抱負を考えた時に、利用者さんのパワーをどう活かすか、いい支援が出来るように利用者さんファーストで考えて行きたいと思っ。利用者さん一人一人の個性を大切に、利用者さんの話に耳を傾け、安心して生活できるように、私達支援員がどうしていくのか考えていく一年になりそうです。さあ、支援員の皆さん、忙しくなりますよ。

利用者さんのパワーを支援の力に変えて、はりきっていきましよう！

みんなの笑顔のために

日立市母子療育ホーム 児童発達支援管理責任者

堀江 浩子

5年前の春から、母子療育ホームの児童発達管理責任者として皆さんの方と関わらせていただいており

ます。一年目は、環境や職員も変わり、不安も大きくなか、通ってくる利用者さんが、安心して通えるようにと考える日々でした。それからは、利用者さんの環境に合わせて、一人ひとりのニーズに出来ることのできるようにと考えています。

母子療育ホームは、母子通園を大切にしています。お子さんの様子がすぐに分かること、幼稚園や学校、通院状況などを伺い、一つでも多くお子さんの情報を共有できること、お子さんの頑張っている姿を家族と一緒に応援できること、できることが増え一緒に喜べること、とても嬉しいことだと感じています。就労をしているお母さんもいるなかでの利用も考えてしまします。4月からは、より利用しやすいように検討していきたいと思っ。そして、どんな方も笑顔で帰ることができるよう、職員一丸となって励んでまいるたいと思っ。

少しずつ

日立市障害者共同生活援助施設・日立太陽の家
サービス管理責任者 井下 敦夫

G Hが開所し、早5年目に入りました。今迄にない次に進む体験型のサービスとしてスタートし、少しずつ理解をしていただけたと感じています。新たに第2歩目として今迄、練習してきた成果として短期入所へ進むように声掛けを進めていきたいと思っています。色々な思いや事情、課題はあると思いますが、五年後、十年後を考え私達は働きかけていきます。通過施設としてこれからの利用者様の将来に向け、結果がすぐに出ない取り組みであります。選択肢を増やす、幅を広げる意味でとても重要です。今だけの優しさ・寄添いではなく、縁あって携わった者として責任ある関わり、優しさを提供したいと常に想います。

この働きかけが、数年後に「あの時、やっておいて

良かった」と感じてほしいので今年度も「笑顔と感謝」をもって業務に従事して参りますのでよろしくお願ひします。

困ったときの居宅

日立太陽の家居宅介護事業所
サービス提供責任者 澤島 喜美

2009年にスタートした「居宅」は地域の中で穏やかに過ごすために、家族だけで努力せずに暮らしてゆけるような力になろうと始まりました。急に通院したいので迎えに来てもらえませんか？(通院等介助)急用ができたので見守りしてもらえませんか？(身体介護・重度訪問介護)その他にも数々の依頼があります。そんな時にいろいろな方々の協力が必要になります。職員はもちろん、元々予定していた利用者さんにも時間の変更や時にサービスのキャンセルをお願いしなければならぬ場合もあります。こんな時は、皆さんに支えられて毎日のサービスが行えていることを忘れ

てはいけないなあ……と思います。ご協力ありがとうございます。

困ったときは「居宅に相談してみようかな」と思ってもらえるように、「はい大丈夫です。」と笑顔でお応えできるように、皆さんにご協力いただきながら、たくさんの笑顔のために、スタート時の思いと感謝を忘れずに柔軟にお応えできたらと思います。

笑顔に感謝

日立太陽の家相談支援事業所
相談支援員 横田 寿子

優しい春風が吹いてくる中、「太陽の子」を見返している。涙があふれてきました。「書き初めを手にした希望の笑顔」「新施設の前で期待に胸を膨らませた笑顔」「成人お祝いの集合写真で、みんなと一緒の笑顔」「かわいい笑顔から凛々しい笑顔」「はしゃいだ笑顔と見守る微笑み」「口元に力の入った頑張り笑顔」「真剣な表情から漏れる自信の笑顔」と仲間たちの優しい笑顔「お

ふろに入れてくれて、ありがたうの笑顔」「新たな生活へ私が先に進むからの握手と笑顔」太陽の子をめくると、言葉では表現できないほど素敵な笑顔があふれていました。笑顔の周りには、たくさんの笑顔があることに気づきます。私にとって笑顔は希望そのものです。私も皆さんが前向きな生活を送るためのお手伝いが出来る、笑顔の相談支援専門員でありたいと思ってきました。これからも「太陽の子の笑顔」をみんなと共に増やせたらと思います。

出会いと別れ

給食部 矢吹 順子

この春、給食部で一番先輩の職員が退職された。市役所時代を含め26年間給食に携わってこられた。多くの利用者さんや職員の方たちと過ごし、あつという間に時が過ぎてこんなに長く勤められたのは利用者さんとの関わりがあったからかなと話していた。私もそうかもと思う。いろいろな場

面で利用者さんの屈託のない笑顔に励まされたり、意外な能力に驚いたり、何気ない会話に心が和んだりすることが少なくない。彼女のこれからの人生に心からのエールを送りたい。私も勤続23年、事業所は違えど同じ道を歩んできた。自分はまだまだ若いとおもっていたが介護保険料納付書やら年金通知書やらが届き、えー私年金もらうの？と人ごとのように思う自分がいる。しかし容赦なく時はあっという間に過ぎる。みんないろんな経験をしながら、少しずつ確実に変化しているのだ。

二十数年ずつと一緒の利用者さんもいる。去年いらした方もいる。幾人かの方を送り、また迎えてきた。人生は時にさみしく、うれしくもある。だからこそ昨日の別れに涙しても今日の出会いに感謝して今を大切に過ごしていこうと思う。この春、給食部でも新しい仲間が加わった。うれしい春のはじまりです。



卒業記念品の依頼がありみんなで作業、おめでとうの心を込めてラッピングしました。(しいの木学園)



4名の利用者さんが節目の歳を迎えお祝いをする事ができました。とても素敵なお式になりました。

(太陽の家)



利用者さんの還暦祝いを行いました。毎日を笑顔で過ごす姿に元気をいただいています。

(しいの木学園)



「えいっ、遠くまで飛んでいけ」ひまわり学園の利用者さんとフライングディスクで楽しみました。

(母子療育ホーム)

※写真撮影のためマスクをはずしています

お知らせ

◎二〇二四年度

NPO法人日立太陽の家

利用者総数 三百八十四名

男性 二百二十一名

女性 百六十三名

日立市太陽の家

総数 十九名

男性 九名

女性 十名

日立市ひまわり学園

総数 三十名

男性 十九名

女性 十一名

日立市しいの木学園

総数 十九名

男性 十五名

女性 四名

日立市母子療育ホーム

総数 三十三名

男性 十八名

女性 十五名

日立市障害者共同生活援助施設

総数 七十三名

男性 四十七名

女性 二十六名

日立太陽の家居宅介護事業所

総数 四十九名

男性 二十三名

女性 二十六名

日立太陽の家相談支援事業所

総数 百六十一名

男性 九十名

女性 七十一名

ご寄付ありがとうございました

○次の方から寄付を頂きました

(敬称略) 十二月〜二月

黒澤弘明 金澤博美

一般社団法人親切会関東支部

日立厚生医院・嶋崎陽一

とく名 澤島供弘・京子

株式会社日興・中山泰志

○次の方から物品の寄贈がありました

(敬称略) 十二月〜二月

椎名将光 内山徳子

大森健二 黒澤和子

根本将伍 鎌田知秀

編集後記

春のたよりが届いて、新しい出会いや懐かしい人との再会にも心躍らせる。共に過ごせる事に感謝、一瞬一瞬を大切に。

(K記)

